

## 2.

# 多項式環上の素イデアル分解について

下山武司  
野呂正行  
横山和弘 (富士通情報研)

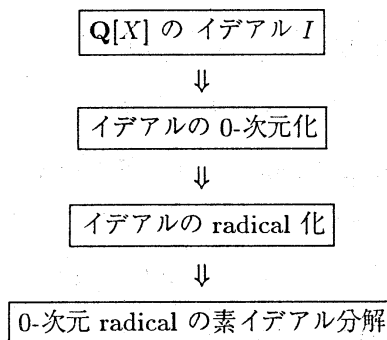
## 2.1 素イデアル分解と代数拡大体上の因数分解

### 素イデアル分解の流れ

$\mathbb{Q}[x_1, \dots, x_n]$ : 有理数体  $\mathbb{Q}$  上の多項式環 ( $\mathbb{Q}[X]$  と略記)

$I: \mathbb{Q}[X]$  のイデアル.

一般にイデアル  $I$  の radical の素イデアル分解 (prime decomposition) は, 次の様な流れで行われる.



### イデアルの 0-次元化

$I$  の Maximally independent set  $U$  に対し  $I^e = IQ(U)[X \setminus U]$ : 0-次元イデアルは,  $\mathbb{Q}(U)[X \setminus U]$

上の 0-次元イデアル. 又  $I^{ec} = I^e \cap \mathbf{Q}[X]$  と置いたときに

$$\sqrt{I} = \sqrt{I^{ec}} \cap \sqrt{Id(I, f)}$$

を満たす多項式  $f$  が求められる.

これ以降, 体  $\mathbf{K}$  を  $\mathbf{K} = \mathbf{Q}(U)$  と置いて, イデアルは  $\mathbf{K}[x_1, \dots, x_r] = \mathbf{K}[X]$  上 0-次元の物であると考え.

### 0-次元イデアルの radical 化

$\mathbf{K}[x_1, \dots, x_r]$  上の 0-次元イデアル  $I$  に対し, 各  $i = 1, \dots, r$  に付いて  $I \cap \mathbf{K}[x_i] = Id(f_i)$  となる  $x_i$  の一変数多項式  $f_i$  を取る. この時, 次が言える.

$$I \text{ が radical} \Leftrightarrow \text{全ての } f_i \text{ が } \mathbf{K} \text{ 上既約}$$

### 代数拡大体上の因数分解

$\mathbf{K}$  の successive extension を考える.  $\mathcal{K} = \mathbf{K}(\alpha_1, \dots, \alpha_r)$  s.t.  $p_1(\alpha_1) = 0, p_2(\alpha_1, \alpha_2) = 0, \dots, p_r(\alpha_1, \dots, \alpha_r) = 0$

$\mathcal{K}$  の上で  $\mathbf{K}[x]$  の square-free 多項式  $f(x)$  を分解することは剰余環

$$\mathcal{H} = \mathbf{K}[x_1, \dots, x_r, x]/Id(p_1(x_1), \dots, p_r(x_1, \dots, x_r), f(x))$$

を次の様な体  $\mathcal{L}_i$  への直和分解を与えることと同値である.

$$(A) \quad \mathcal{H} = \mathcal{L}_1 \oplus \dots \oplus \mathcal{L}_m$$

ちなみに各体  $\mathcal{L}_i$  が  $\mathbf{K}[x_1, \dots, x_r, x]/P_i$  ( $P_i$  は maximal ideal) で与えられ,

$$\mathbf{K}(x_1, \dots, x_r)[x]P_i = Id(f_i)$$

と書けたとき,  $\mathbf{K}(x_1, \dots, x_r)[x]$  の多項式  $f_i$  は,  $f$  の素因子で,

$$f = f_1 \cdots f_m.$$

剰余環の分解 (A) は, 最も素朴には Norm を計算し, 因数分解すればよい.

$$Norm(f(x - \beta), \alpha_1, \dots, \alpha_r) = Id(f(x - \beta), p_1, \dots, p_r) \cap \mathbf{K}[x]$$

ただし,  $\beta$  は  $\mathcal{K}$  の primitive element

### 0-次元 radical イデアルの素イデアル分解

これ以降,  $I$  は  $\mathbf{K}[X]$  上 0-次元 radical イデアルとする.

$I$  の素イデアル分解  $P_1 \cap \dots \cap P_r$  を考える. ここで,  $P_i$  は,  $\mathbf{K}[X]$  の maximal ideal. これは,  $\mathbf{K}[X]/I$  の体の分解

$$(B) \quad \mathbf{K}[X]/I = \mathbf{K}[X]/P_1 \oplus \dots \oplus \mathbf{K}[X]/P_r$$

を与えることと同値.

式 (A),(B) を見比べる事で, 次が言える.

0次元 radical ideal の素イデアル分解

⇕ 本質的に同じ

代数拡大体上の因数分解

$\mathbf{K}[x_1, \dots, x_r]$  イデアル  $I$  の primitive element をそのまま求めるのは非常に重い計算.

⇓

変数  $x_1, \dots, x_r$  を代数的数と見なし successive factorization したほうが計算効率がよい.

### Successive Algebraic Factorization の素イデアル分解への応用

$\mathbf{K}[x_1, \dots, x_r]$  の 0次元 radical ideal  $I$  を successive algebraic factorization を応用して次の様な素イデアル分解 algorithm が考えられる.

- (1)  $I \cap \mathbf{K}[x_1]$  の生成元  $g(x_1)$  を求める.
- (2)  $g(x_1)$  を因数分解し  $g = g_1 \cdots g_m$ . とする. これより

$$I = Id(I, g_1(x_1)) \cap \cdots \cap Id(I, g_m(x_1)).$$

- (3) ここで  $Id(I, g_1(x_1))$  を取る.

$\alpha_1$  を  $g_1(\alpha_1) = 0$  を定義多項式とする代数的数とすると, 次の同型が成り立つ

$$\mathbf{K}[x_1, \dots, x_r] / Id(I, g_1(x_1)) = \mathbf{K}(\alpha_1)[x_2, \dots, x_r] / I|_{x_1=\alpha_1}.$$

$I|_{x_1=\alpha_1}$  を  $I_1$  と置き直すと,  $I_1$  は,  $\mathbf{K}(\alpha_1)[x_2, \dots, x_r]$  の 0次元 radical イデアルである.

- (4) 続いて,  $I_1 \cap \mathbf{K}(\alpha_1)[x_2]$  の生成元  $h(x_2)$  を取る. ( $h$  は,  $\alpha_1$  を係数を持つ一変数多項式.)
- (5)  $h(x_2)$  を代数拡大体  $\mathbf{K}(\alpha_1)$  上で因数分解する.

$h(x_2)$  の素因子  $h_1 \in \mathbf{K}(\alpha_1)[x_2]$  に対し,  $h_0(\alpha_2) = 0$  を定義多項式を持つ代数的数  $\alpha_2$  を取ると, 上と同様に次の同型が成り立つ.

$$\mathbf{K}[x_1, \dots, x_r] / Id(I, g_1(x_1), h_1(x_1, x_2)) = \mathbf{K}(\alpha_1, \alpha_2)[x_3, \dots, x_r] / I|_{x_1=\alpha_1, x_2=\alpha_2}.$$

これを  $x_3, \dots, x_r$  と繰り返せば, 次の様な剰余環の体への分解が得られる.

$$\mathbf{K}[X] / I = \bigoplus_{i=1}^d \mathbf{K}(\alpha_{i,1}, \dots, \alpha_{i,r})$$

ただし,  $d = \dim_{\mathbf{K}} \mathbf{K}[X] / I$  である.

$\{\alpha_{i,1}, \dots, \alpha_{i,r}\}_{i=1, \dots, d}$  の定義多項式より  $I$  の素イデアル分解が計算できた.

参考:

- Successive Algebraic factorization は, Anai, H. , Noro M. , Yokoyama K. (1995) を参照.
  - 有理数体上のイデアルの最少多項式は “Linear solving and Hensel Lifting” によって効率的に計算.
- (参照:野呂正行「Generalized Shape Lemma の Hensel 構成による計算」1995.11.21 数解研)

- 有理数体上代数拡大体上の GCD 計算は, Chinese Remainder を利用すると効率的

## 2.2 $Id(P, s)$ で表されるイデアルの素イデアル分解

背景: 下山&横山 による準素イデアルアルゴリズム

**Theorem**  $R$  のイデアル  $I$  とその separator 系  $S_1, \dots, S_r$  を取る. 各  $i$  に対し,  $\bar{Q}_i = IR_{S_i} \cap R$ ,  $s_i = \prod_{s \in S_i} s$ , と置き  $k_i$  を  $(I : s_i^{k_i}) = IR_{S_i} \cap R$  を満たす自然数とする.  $I' = Id(I, s_1^{k_1}, \dots, s_r^{k_r})$  と置くと

$$(C) \quad I = \bar{Q}_1 \cap \dots \cap \bar{Q}_r \cap I',$$

が成り立つ. 更に,  $I' = R$  あるいは  $\dim(I') < \dim(I)$  のいずれかが成り立つ.

**Definition** 上の分解 (C) を pseudo-primary decomposition と呼ぶ. また, 各  $\bar{Q}_i$  を  $I$  の pseudo-primary component,  $I'$  を pseudo-primary decomposition の remaining component と呼ぶ.

**Corollary**  $\sqrt{I'} = \sqrt{Id(P_1, s_1)} \cap \dots \cap \sqrt{Id(P_r, s_r)}$ .

**Theorem** pseudo-primary ideal  $I$  に対し,  $Q$  を  $I$  の唯一の isolated primary component,  $f$  を extractor とする.  $k$  を  $IR_f \cap R = (I : f^k)$  を満たす自然数,  $I'$  をイデアル  $Id(I, f^k)$  とすると  $Q = IR_f \cap R$  であり, つぎが成り立つ.

$$(D) \quad I = Q \cap I'.$$

更に,  $I' = R$  あるいは  $\dim(I) > \dim(I')$  が言える.

**Definition**  $I$  を pseudo-primary ideal,  $P$  をその radical とする. 上の Theorem の decomposition (D) を  $I$  から  $Q$  の extraction と呼び,  $I'$  を extraction の remaining component. と呼ぶ.

**Corollary**  $\sqrt{I'} = \sqrt{Id(P, f)}$ .

### Special Prime Decomposition of Radicals

pseudo-primary decomposition または extraction の入力イデアル  $V$  を取る.

radical  $\sqrt{V}$  の素イデアル分解は, 一つの素イデアル  $P$  に一つの要素  $f$  を加えたもので生成されるイデアル  $Id(P, f)$  の素イデアル分解に帰着できる.

↓

$Id(P, f)$  の形の素イデアル分解を利用.

**Procedure (E) PrimaryDecomposition( $I, d$ )**

Input: A positive integer  $d$  and an ideal  $I$  such that  $\dim(I) \leq d$ .

Output: A set  $\mathcal{P}\mathcal{L}$  of isolated prime divisor of  $I$  with dimension  $d$ .

begin

$\mathcal{P}\mathcal{L} \leftarrow \{\}, J \leftarrow I$

$\mathcal{U} \leftarrow$  the set of all maximal strongly independent sets  
modulo  $I$  with  $d$  elements

for all  $U$  in  $\mathcal{U}$  do

If  $U$  is not a strongly independent set modulo  $J$   
then continue

$\mathcal{P}^* \leftarrow$  the set of all prime divisor of  $I$  computed in  $\mathbf{Q}_U$

$\mathcal{P}\mathcal{L} \leftarrow \{P^* \cap R \mid P^* \in \mathcal{P}^*\} \cap \mathcal{P}\mathcal{L}$

$H \leftarrow$  a Gröbner basis of  $I$  with respect to a block  
order  $U \ll X \setminus U$

$f \leftarrow \text{lcm}\{HC_U(g) \mid g \in H\}, J \leftarrow Id(J, f)$

return  $\mathcal{P}\mathcal{L}$

end

**Mathematical Background of Specail Procedure**

**Proposition** 素イデアル  $P_0$  と  $P_0$  に含まれない  $R$  の要素  $s$  に対しイデアル  $Id(P_0, s) \neq R$  の isolated prime は全て次元が等しく  $\dim(P_0) - 1$  である.

**Lemma**  $I$  を  $R$  のイデアルとし,  $I$  の isolated prime の中で最大の次元を持つものを  $P$  とする. すると, 任意の admissible order  $<$  に付いて, 全ての  $P$  に関する maximal strongly independent set  $U$  は, また  $I$  に関する maximal strongly independent set にもなる.

**Remark** 次の事柄は, Procedure (E) の効率のよさを示している.

- (1) 有理関数体上の  $0$ -次元イデアルの prime decomposition の回数は,  $I$  の isolated prime の個数で押さえられる.
- (2) 有理関数体上の  $0$ -次元イデアルの prime decomposition は,  $I$  に対してのみ行われる.
- (3) Remaining ideal  $J$  は, 変数が strong independent かどうかを確かめるのに用いる. そのチェックには, 任意の order に対する Gröbner 基底が使える.

**Implementation of Prime Decomposition**

次の分解式を用いる.

$$(F) \sqrt{Id(I, fg)} = \sqrt{Id(I, f)} \cap \sqrt{Id(I, g)}$$

$$(G) \sqrt{I} = \sqrt{(IR_f \cap R)} \cap \sqrt{Id(I, f)}$$

### Implementation of the General Procedure

$I$  を  $R$  の任意の ideal とする. ( $Q_U := \mathbf{Q}(U)[X \setminus U]$ .)

(1) 分解式 (F) 及び (G) を用いて, 次の様なイデアル  $J_i$  を計算する.

$$(i) \sqrt{I} = \sqrt{J_1} \cap \cdots \cap \sqrt{J_s},$$

(ii)  $J_i$  の Gröbner 基底の全ての要素は  $R$  上の多項式として既約である.

(iii)  $J_i$  に関する maximal strongly independent set  $U_i$  に対して  $J_i \mathbf{Q}_{U_i} \cap R = J_i$

(2) 各  $J_i$  に対し, 全ての prime component を次の様にして求める.

(2.1)  $\mathbf{Q}_{U_i}$  の 0-次元イデアル  $J_i \mathbf{Q}_{U_i}$  に対しその radical  $J'_i$  を計算する.

(2.2)  $J'_i$  の prime decomposition を計算する.

(2.3) 各  $P'_{i,j}$  に対し,  $R$  への contraction  $P_{i,j}$  ( $P_{i,j} = P'_{i,j} \cap R$ ) を計算する.

• 各  $P_{i,j}$  は,  $R$  の素イデアルでかつ  $\sqrt{J_i} = P_{i,1} \cap \cdots \cap P_{i,t_i}$ .

(3)  $P_{i,j}$  の中で余分な component を取り除く. (component  $P_{i,j}$  が余分なものかどうかは,  $P_{i,j}$  が別の component  $P'_{i,j'}$  を真に含むかどうかで判定できる.)

### Implementation of the Special Procedure

Procedure をより実用的にするために decomposition (F) を組み込む.

**Pre-Procedure:** 与えられたイデアル  $I$  に (F) を適用するために  $\sqrt{I} = \sqrt{I_1} \cap \cdots \cap \sqrt{I_s}$  かつ各  $I_i$  の Gröbner 基底の全ての要素は  $R$  の多項式として既約となるイデアル  $I_i$  を計算する.

**Procedure** (*PrimeDecomposition*( $I$ ) (special version))

Input: An ideal  $I$  such that every isolated prime divisor has the same dimension.

Output: A set  $\mathcal{PL}$  of all prime divisors of  $\sqrt{I}$ .

begin

$\mathcal{PL} \leftarrow \{\}, d \leftarrow \dim(I)$

$\mathcal{I} \leftarrow$  the set of all ideals obtained by Pre-Procedure.

for each  $J$  in  $\mathcal{I}$

if  $\dim(J) \neq d$  then continue

if  $J$  is prime then  $\mathcal{PL} \leftarrow \{J\} \cup \mathcal{PL}$

else  $\mathcal{PL} \leftarrow \text{SpecialPrimeDecomposition}(d, J) \cup \mathcal{PL}$

return  $\mathcal{PL}$

end

**Remark** 経験的には, 非常に多くの例で *pre-procedure decomposition* ですでに *prime decomposition* になっている. 事実, *example* に上げた全ての例において, *pre-procedure* で計算されたイデア

ルは 147 個, そのうちの 142 個 (96.6%) がすでに素イデアルであった. すなわち, 多くの場合この *procedure* は, 初めの素イデアル判定のところで終了する.

## 参考文献

- [1]Aho, A.V., Hopcroft, J.E., Ullman, J.D. (1974). *The Design and Analysis of Computer Algorithms*. Addison-Wesley, Reading, MA.
- [2]Anai, H. , Noro M. , Yokoyama K. (1995). *Computation of the splitting fields and the Galois groups of polynomials*. MEGA '94.
- [3]Atiyah, M.F., MacDonald, I.G. (1969). *Introduction to Commutative Algebra*. Addison-Wesley, Reading, MA.
- [4]Alonso, M.E., Mora, T., Raimondo, M. (1990). Local decomposition algorithms. AAECC-8, Springer LNCS 508, 208-221.
- [5]Backelin, J., Fröberg, R. (1991). How we prove that there are exactly 924 cyclic 7-roots. Proceedings of ISSAC'91, ACM Press, 103-111.
- [6]Becker, T., Weispfenning, V. (1993). *Gröbner Bases*. Springer-Verlag, New York.
- [7]Boege, W., Gebauer, R., Kredel, H. (1986). Some examples for solving systems of algebraic equations by calculating Gröbner bases. *J. Symb. Comp.* 1, 83-98.
- [8]Buchberger, B. (1965). Ein Algorithmus zum Auffinden der Basiselemente des Restklassenringes nach einem nulldimensionalen Polynomideal. Doctoral Dissertation Math. Inst. University of Innsbruck, Austria.
- [9]Buchberger, B. (1985) Gröbner bases: An algorithmic method in polynomial ideal theory. In: Bose, N.K. (ed.), *Multidimensional Systems Theory*, Reidel, Dordrecht, 184-232.
- [10]Eisenbud, D., Huneke, C., Vasconcelos, W. (1992). Direct methods for primary decomposition. *Inventiones Mathematicae*, 110, 207-235.
- [11]Gianni, P., Trager, B., Zacharias, G. (1988). Gröbner bases and primary decomposition of polynomial ideals. *J. Symb. Comp.* 6, 149-167.
- [12]Gräbe H.G. (1994). On factorized Gröbner bases. To appear in Proc. Computer Algebra in Science and Engineering.
- [13]Gräbe H.G. (1995). CALI – A REDUCE package for constructive commutative algebra, Version 2.2.1. (anonymous ftp from [aix550.informatik.uni-leipzig.de](ftp://aix550.informatik.uni-leipzig.de))
- [14]Kalkbrener, M., Sturmfels, B. (1993). Initial complexes of prime ideals. To appear in *Advances in Mathematics*.
- [15]Kredel, H. (1987). Primary ideal decomposition. EUROCAL '87, Springer LNCS 378, 270-281.

- [16]Kredel, H., Weispfenning, V. (1988). Computing dimension and independent sets for polynomial ideals. *J. Symb. Comp.* **6**, 231-247.
- [17]Lazard, D. (1985). Ideal bases and primary decomposition: Case of two variables. *J. Symb. Comp.* **1**, 261-270.
- [18]Nagata, M. (1962). *Local Rings*. Tracts in Mathematics Number 13, Interscience Publishers, New York.
- [19]Noro, M., Takeshima, T. (1992). Risa/Asir – a computer algebra system. Proceedings of IS-SAC'92, ACM Press, 387-396. (anonymous ftp from (133.12.50.13) ftp.mm.sophia.ac.jp, directory /asir)
- [20]Oaku, T. (1994). Computation of the characteristic variety and the singular locus of a system of differential equations with polynomial coefficients. *Japan J. Indust. Appl. Math.* **11**, 485-497.
- [21]Rutman, E.W. (1992). Gröbner bases and primary decomposition of modules. *J. Symb. Comp.* **14**, 483-503.
- [22]Shimoyama, T., Yokoyama, K. (1994). Localization and primary decomposition of polynomial ideals. FUJITSU ISIS Research Report, ISIS-RR-94-10E.
- [23]Wang, D. (1992). Irreducible decomposition of algebraic varieties via characteristic sets and Gröbner bases. *Computer Aided Geometric Design* **9**, 471-484.
- [24]Zariski, O., Samuel, P. (1958/60). *Commutative Algebra*, vols. I, II. Van Nostrand, Princeton, NJ. Reprint Springer-Verlag, New York, 1975/79.